

## 夢のつばさプロジェクト 2014年春の交流会 学生報告書

【日程】2014年3月30日（土）

【場所】仙台市／プレイボウル、榴ヶ岡市民センター

【参加者】子ども15名（前回までのキャンプ経験者）、学生17名、社会人スタッフ3名（看護師1名を含む）

### ■ 実施に至った経緯

---

夢のつばさプロジェクトの活動は、夏と冬の長期休暇中に行う3泊4日のキャンプを中心としてきましたが、昨年初めて「忙しい中高生とも会う事ができるように東北で開催する」という春の交流会を実施し、参加者にも学生スタッフにも好評でした。現地で開催するため、保護者の方とスタッフがお話する機会を設けたり、子どもに対しても、荷物を持つての移動や翌朝の予定を気にせず、体を使って遊ばせることのできるイベントとなりました。

昨年は学生主体の開催でしたが、社会人スタッフとも話し合い、今回からこの「春の交流会」をプロジェクトの活動として年間の予定に組み込むことが決まりました。今後も、年に2回のキャンプだけではなく春、夏、冬の3回は確実に子どもたちとの交流を続けられるようにしていきたいと考えています。

### ■ キャンプ活動概要

---

#### 【タイムスケジュール】

- 10:00 仙台駅集合
- 10:00～10:20 徒歩移動（プレイボウルへ）
- 10:30～12:45 ボウリング
- 12:45～13:20 電車移動（榴ヶ岡市民センター）
- 13:20～14:00 昼食、お弁当
- 14:00～16:30 室内遊び
- 17:00～17:25 電車移動
- 17:30 仙台駅解散

※ 希望された保護者のみ、15:00より榴ヶ岡市民センターの一室にて学生代表者2名、引率スタッフ2名と懇談形式で活動報告、交流会を行いました。

## ○ 集合

朝 10:00 仙台駅新幹線南改札に集合しました。子どもたちはそれぞれ保護者の方々に送られて集まりました。

女の子たちは次々に集まる仲間たちに笑顔で手を振ったり抱き合ったり、さっそく会話を楽しんだりしていました。学生も、子どもたちと再会してとてもうれしく、それぞれ生き生きとした表情を浮かべて話していました。10:00 になる前に全員集合し、ボウリング場へと出発しました。



## ○ ボウリング

夢のつばさプロジェクトで初めてのボウリングです。「どの重さのボールにしよう?」「ボウリングは初めてだけできるだろうか」などと子どもたちはすぐに夢中になっていました。シューズを履き替えて、自分の名前が書いてある画面の下のレーンにいて、いよいよゲーム開始です。子どもたちは、スコアを比べてニコニコ嬉しそうに笑って、「自分のチームが一番高いスコアだ」とか、「ストライクやスペアを出したい!」とか言って負けず嫌いな表情を見せていました。

2ゲームずつの予定でしたが、3ゲーム目を行ったグループもありました。2ゲームで終わりにして休憩していた子どもたちもいましたが、3ゲームの最後まで元気よく重いボールを投げて、楽しそうに遊んでいた子どもたちの姿が印象的でした。



## ○ 榴ヶ岡市民センター

市民センターに移動してから、昼食のお弁当を全員で食べました。ボウリングで白熱して時間が遅くなってしまったためか、みんなとてもおなかがすいて、黙々とよく食べていました。しかし食べ終わって自由時間になると、それぞれ学生と話したり、子ども同士で遊んだりして、またいつものにぎやかな様子になりました。自由時間のあとは、  
① 小学生と学生一部 ② 中高生と学生一部、社会人スタッフ1名 ③ 学生代表2名と社会人スタッフ2名に分かれ、以下の企画を行いました。

### ① 工作、室内レク

あいにくの雨で外に出ることができなかつたので、小学生たちは室内レクを楽しみました。室内レクの内容は、折り紙をちぎって、下書きがしてある画用紙に貼って絵を作るちぎり絵、ビンゴ大会、スライムづくりです。ちぎり絵の際には、高学年女子が協力して頑張りました。スライムづくりでは男子がとても興味津々でした。中にはある学生にわたすためのプレゼントを作っている子もいました。



↑ (左) のりを使って貼り付ける / (右) 小学生の子どもたちによるちぎり絵の作品の写真



↑ (左) コップの中でスライムを混ぜる / (中) ビンゴ / (右) 協力して工作中

### ② 中高生と学生で夏キャンプの企画を作る話し合い

これまで、夏・冬のキャンプの内容は学生や社会人スタッフで考え、話し合って決めてきました。しかしどうしても小学生に向けて作る企画に偏りがちになり、中高生の子たちが楽しめているか、学生自身不安を感じていました。しかし、逆に中高生向けに行

う企画は、小学生など小さな子どもたちが楽しめないという点が心配されます。小学生と中高生の両方が楽しめて、そして自ら参加していると思えるにはどのような手段があるかと、スタッフが皆で考えてきました。

そこで出た案が、『中高生に大学生と一緒に企画づくりに挑戦してもらおう』というものでした。年齢の上の子どもたちが、大学生スタッフ側に参加して、「相手を思いやりながら企画を作っていく」役割をほんの少しずつでも経験していくことで、やり終えた達成感や成功した際の自信を得る機会になればうれしいと思います。

こうした理由から、今回の春の交流会では、中高生に、次の夏キャンプの3時間程度の企画の構想作りに学生と一緒に挑戦してもらうことにしました。

2つほどのチームに分かれて案を出し合いました。普段見せないような真剣なまなざしで自分の思いを語る子どもたちや、和気あいあい案を出し合ったり、友達の話聞いて賛同したりする様子が見られてうれしく思いました。これから6月頃にもう一度現地（仙台）で話し合いをして、企画の詳細について考えていく予定です。

### ③ 保護者交流会

夢のつばさプロジェクトでは、昨年春に初の試みで学生が保護者の方とお話しする機会を設けることができました。その際に、子どもたちの普段の様子を語っていただき、こちらからは、キャンプに参加中の子どもたちの様子を直接お伝えできました。また保護者の方の要望や不安点を伺うことのできる機会となりました。そのため学生側は、今回も是非開催したいという思いがあり、社会人スタッフからも賛同を得て開催することができました。

今回は6名の保護者の方が参加してくださり、和やかな雰囲気での交流会となりました。中でも印象に残ったのは、「こうして集まって話すことができるのがうれしい。話を聞いてもらうだけでなく、ほかの保護者の方々、同じ境遇の人と、心からわかり合い、話し合えてよかった」と、皆様がおっしゃってくれたことでした。帰り際も「また会いましょうね」という声が聞こえ、保護者—学生間だけでなく、保護者—保護者間で会話を楽しむ機会を持てたことも、とても有意義だったのではないかと感じます。学生からも、キャンプでの子ども様子を詳しく話したり、保護者の方々からの要望を伺ったりすることができました。

来年以降も継続して、保護者の方と信頼関係を築いていきたいと思っています。

## ○解散

3班に分かれていたところから再び全員集合し、荷物を持って市民センターを出ました。保護者の方とともに車で帰る子どもたちと、仙台まで歩く子どもたち（保護者）とがいて、少々混乱してしまいました。解散をきちんと取り仕切って、事務局へ終了報告を入れることが次回にむけての反省ですが、社会人スタッフ、市民センターの方々の協力のもと、雨の中、けが人も体調不良者も出ずに無事交流会を終えることができました。

## ■ 春キャンプを終えて

---

収穫の多い交流会でした。中高生との企画づくりは必ず成功させて子どもたちと喜びを分かち合いたいと思います。作ることを通して自分の思いを遠慮せずに出してくれるのも、頼もしく、うれしい経験でした。保護者の方とお話しできたことも今後の活動に生かされる大変貴重な時間でした。何より子どもたちとまた再会することができて、学生自身も元気づけられました。

「夢のつばさプロジェクト」の活動に参加していることを誇らしく思えたことも、とても有意義でした。今後、受験や子どもたちが成長するにつれて、さまざまな悩みや困難が出てくるかもしれない不安もありますが、より一層子どもたちと保護者の方々に心を寄せて、活動を考えていこうと思っています。榴ヶ岡市民センターの皆様、スタッフの大人の方々、そしていつも夢のつばさの活動を支えてくださる皆様、ありがとうございました。これからもよろしくお願ひ致します。

学生副代表 お茶の水女子大学生生活科学部3年 加藤玲子